

論文

# 等時性に焦点を当てたトルコ人学習者の日本語歌唱音声と音読音声の分析

石山友之

## 要旨：

本研究では、トルコ人日本語学習者の音声に見られる等時性を分析することを目的とし、日本語による歌唱音声と音読音声の比較を行った。先行研究ではあらかじめ決められたテンポが存在する場合はモジュール（VC単位）での等時性が見られることが指摘されているが、本研究においても、テンポが存在する歌唱音声のモジュールは最も等時性が強いということが明らかになった。また、歌唱音声モジュール、音読音声モジュール、音読音声モーラ、歌唱音声モーラという順に等時性の序列が存在することがわかった。本研究では、等時性の強さを分析するために統計的手法を援用しており、その結果、先行研究よりもより客観的な結果を得ることができたと思われる。

また、モーラ、モジュールの外れ値について分析を行った結果、/tu/の/t/は短く、/u/は長いということが明らかになった。この傾向は歌唱音声と音読音声のどちらにおいても見られるものであり、/tu/の発音のしかたはトルコ人日本語学習者の特徴となっていることが明らかになった。

**キーワード：**等時性、モジュール、モーラ、歌唱音声、音読音声、トルコ人日本語学習者

## **Abstract :**

The purpose of this study is to analyze isochrony in singing voice (SV) and reading aloud (RA) by Turkish learners of Japanese. For this purpose, Levene test and Steel-Dwass test have been performed. The previous study shows that isochrony of module can be seen in the speech with predetermined tempo in Japanese. Also in the present study, Isochrony of module is seen in singing voice, which has predetermined tempo. The results also confirm that isochrony hierarchy can be seen in the order of module in SV, module in RA, mora in RA and mora in SV. Therefore, this study reveals that module is more isochronous than mora even in the utterance by Turkish learners of Japanese. The results of the present study by statistical analysis are more objective compared to previous studies.

The result of analyzing outliers shows that/t/in/tu/tend to be shorter; /u/in/tu/tend to be longer in the utterance by Turkish learners. This characteristic contrasts with the previous study analyzing the utterance by Chinese learners.

**Keywords :** Isochrony, Module, Mora, Singing voice, Reading aloud, Turkish learners of Japanese

## **1. はじめに**

日本語のリズムの習得をすることは、自然な日本語を習得するために重要である。近藤 (2011) も「日本語の発話リズムの特徴が音声習得、ひいては音声コミュニケーションの一つの障害要素となっている」と述べており、また、「母語話者による学習者の音声発話の評価は、個々の音の正確さよりも、発話リズムによるところが大きい」とも述べている。日本語学習者の音声がかどのようなリズムとなっており、どのような特徴を持っているのかを明らかにすることは、学習者への音声指導の助けとなると考えら